1 学校教育目標
一人一人の子ども の 知・徳・体を磨き、しなやかにたくましく生きる子どもの育成を図る。

2 学校経営ビジョン ～ 信頼される学校づくり ～
<p>1 めざす学校像 (信頼される学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かで、豊かな学びのある学校 ・明るく礼儀正しい学校 ・一人ひとりのよさが生かされ、安心して通える学校 ・落ち着き、整頓された学校 <p>2 めざす子ども像 (元気いっぱい・やる気いっぱい・笑顔いっぱい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気いっぱい「あいさつ名人」(いつでも、どこでも、だれとでも) ・やる気いっぱい「聞き方名人」(学びは聞くことから) ・笑顔いっぱい「優しさ名人」(優しい言葉・困った人への寄り添い) <p>3 めざす教師像 (愛と創造の教師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある授業展開、迫力ある指導を求める教師 ・一人ひとりの個性や能力を見極め、指導に生かす教師 ・一人ひとりを受け止め、保護者と連携し、共に育てる教師

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>○<u>授業改造をし、魅力的な学びを作り出す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上をめざし、「わかり合う授業」づくり ・確実な知識の習得をめざす授業づくり。 ・活用し、伸びを実感させる授業づくり <p>○<u>心の教育の充実を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のニーズに応じた個別支援 ・専門機関、保護者との連携による、安心できる関係構築 <p>○<u>安全で安心な学校づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導、地域での生活指導の充実 ・地域、保護者、関係機関との連携強化 	<p>◎研究発表会をやり遂げ、子どもへの授業での関わり方や子ども自身の学び方が向上した。活用力に問題があり、更に継続の必要がある。</p> <p>◎個別の児童への関わりは、その子のニーズに合わせて、スムーズにできるようになったが、困り感を持つ児童と交流(親学級)学級との関係づくりにおいては不十分であった。個と集団、集団と個の中で育ち合う関係性づくりを強化しなければならない。</p> <p>◎地域力・家庭力の動員が学校教育推進には欠かせない。</p>

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	◎学校経営方針の周知	○本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者への周知度を上げる。	①学校だより(月2回発行)、PTA総会、役員会、懇談会、ホームページ(週2回の更新)で周知 ②全校朝会、学年集会等で具体的な講話の実施(毎月)	A	○保護者・地域へは、学校だより、ホームページなどで、学校教育の方針、学校や児童の様子などを知らせることができている。 ○ホームページの更新はできた。 ○児童に対しては、全校朝会、学年朝会、校内放送などで、学年に応じて具体的な講話を通し周知できた。
	◎教職員の資質向上	○校内研究推進による指導力の向上 ○評価育成システムによる自己評価と自己管理	・校内研修、研究授業の計画的推進。 ・丁寧なヒアリングをおこなう。	①研究授業(全職員1回、T T担当年2回・算数)の実施(講師招聘年3回) ②校内研修(講師招聘の研修会3回) ③評価育成システムをもとに目標達成に向けたヒアリング(年3回)	A	○全学級で授業研究会を計画的に実施できた。指導法について研究を深めることができた。 ○自己目標申告書を通してヒアリングができた。ヒアリング年間計画を策定し、意図的計画的にできるように重点月間など設けたい。

	◎心の教育	<p>○道徳の時間の充実 (ふれあい道徳)</p> <p>○いのちの教育の充実</p> <p>○人権同和の推進</p>	<p>・心のノートの活用、道徳の授業参観の実施。</p> <p>・いのちの大切さについて共通実践。</p> <p>・共に生きる人権意識の啓発を図る</p>	<p>①ふれあい道徳の時間として各クラス公開授業を実施(年1回)</p> <p>②道徳的実践活動としてのあいさつ運動の実施(週3回)</p> <p>③平和、いのちの大切さ、それぞれ1回ずつ児童に対しての講話の実施</p> <p>④人権週間に合わせて全児童に人権作文や人権標語の作成を実施。</p> <p>⑤人権についての講話を12月に1回実施</p> <p>⑥嬉野高校とユニバーサルデザイン教育について連携した授業の実施。(1回)</p>	A	<p>○ふれあい道徳や学級作りへの道徳の時間の取り組み等で、教職員の道徳教育実践への意識が高まった。</p> <p>○人権週間での人権標語や学級での取り組みにより、自分や周りの人を大切に、仲良く学習したり生活したりしようとする態度の育成ができた。</p> <p>○あいさつ運動は目的や方法をはっきりとして継続していく必要がある。</p> <p>○平和集会を効果的に活用できるような工夫が必要である。</p> <p>○お世話になったひとたちに年賀状を贈る取り組みは今後も工夫を加えながら続けていきたい。</p> <p>○ボランティアパスポートの取り組みは、目的意識を持たせ、期間を考慮し充実させたい。</p> <p>○UD教育は、4年生の総合を中心に充実させていきたい。</p>
	◎健康・体づくり	<p>○健康な体をつくるための意識の高揚とその実践</p>	<p>・児童の体づくりを推進する。</p> <p>・食育の推進：栄養士との授業を実施する。</p>	<p>①外遊びの奨励(週2回の外遊び)</p> <p>②歯磨きビデオを見ながらの正しいブラッシングの実施(毎日)</p> <p>③栄養士と連携した食育についての授業の実施(学年ごとに年1回)</p>	A	<p>○外遊びはよくできているが、ボール遊びだけでなく、様々な楽しい遊びを紹介し奨励していく。</p> <p>○歯磨きは、継続して児童の意識化を図る。</p> <p>○食育を充実させるために、栄養士、給食担当、学級担任で、年間の計画を設定して実施する。</p>
特定課題	◎小学校低学年の学習環境の改善充実	<p>○1日《家庭・学校》の規律正しい生活リズムの定着</p>	<p>・家庭生活と学校生活の連携を取る。児童が基本的な生活習慣の向上を自覚する機会を設定する</p> <p>・学校での学習生活習慣・学級規律の徹底を図る。</p>	<p>①学校・学年・学級・保健室・T T だより等による啓発活動(早ね・早起き・朝ごはん)</p> <p>②低学年だけでなく、全学年「家庭生活あいうえお」の確実な点検と指導(毎日)</p> <p>③2年生スクールミーティングの実施(年3回)</p> <p>④学年・学級・集会活動等での発達段階に応じた生活指導(月1回)</p> <p>⑤毎週金曜日の学業指導・生活指導・教育相談的指導の振り返りと月ごとの意識調査の実施</p>	B	<p>○基本的な生活習慣・学習習慣の定着については、家庭と連携し、熱心に取り組み保護者の信頼も得ている。まだ十分でない児童もいるので、家庭への啓発をし継続して指導を行う。</p> <p>○1年生は「家庭生活あいうえお」に定期的に、2年生は「よい子の生活」に毎日取り組むことが、正しい生活リズムの継続を促すものとなっている。継続したい。</p>

	◎魅力ある学校づくり推進事業	○郷土を愛する心の育成 ○米作りの苦労と収穫の喜びの体験	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携協議会を立ち上げ、連携を強化する ・地域の方と米作りを体験し、体験を学習につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域・関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携協議会の開催（年3回） ・各地区の対話集会（年1回） ・民生児童委員会、学校評議員会への職員参加（年3回） ②米及び米作りについてのJ A指導員による講話の実施（年4回） ③米作りの苦労を知り、また技術の習得を目指すため、種まき、田植え、生長の観察、稲刈り、脱穀などの体験活動の実施（年間を通じて） ④自然の恵みへの感謝の気持ちを育てるため作文指導の実施（体験活動ごとに） 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携協議会や地区懇談会を行い、学校と家庭、地域での問題点、改善点等を出し合い、交流を行うことができた。 ○種まきや田植え、稲の生長の観察、稲刈り、脱穀、餅つき等を行い、米作りの苦労と収穫の喜びについて、体験活動を行いながら体感させることができた。 ○体験活動を取り入れた生活科、総合的な学習の時間での学習がまだ十分でないため、次年度は、年間計画を話し合う段階で、今年以上に活動を取り入れる必要がある。
--	----------------	---------------------------------	---	--	--

6 総合評価
<p>学校評価を進めるにあたり、本年度は組織の活性化をねらって取り組んできた。直接教育活動に当たるプロジェクトを中心に、全職員との関わりや共通理解をしながら、時間と場を設定しながら進めてきた。</p> <p>そのため、どの職員にも出番や役割が位置づけられ、責任を持って教育活動にあたることになった。また、プロジェクトの中での議論がなされ、学校の経営ビジョンを目標にしながら、児童の様子や問題点を把握しつつ教育活動にあたることができた。また、個々の教師が、学校全体の教育活動と自分の教育活動とを比較し、意識を持って望もうとする姿が見られるようになった。</p> <p>結果として、学力や学習習慣、生活等、いろいろな分野でその効果が表れてきたといえる。児童の実態を見ても、児童や保護者の評価からも効果が上がってきていることが分かる。</p> <p>職員は、学校評価を通して、自らの教育活動に達成感を持つことができた。新たな課題とそれに向かう意欲も持つことができた。組織としての力も伸びてきた。このことをエネルギーに、更に前に進みたい。</p> <p>特別支援教育の充実も重要課題であったが、個別の児童への関わりは、その子のニーズに合わせて、スムーズにできるようになったが、困り感を持つ児童と交流（親学級）学級との関係づくりにおいては不十分であった。個と集団、集団と個の中で育ち合う関係性づくりを強化しなければならない。</p>

7 次年度への課題・改善策
<p>学力については、一定の成果が上がっているが、二極化が広がっている。個に応じた支援を充実し、基礎的な知識理解だけでなく、活用力を伸ばす取り組みを、全職員で探っていききたい。本年度の校内研究、指導法改善の取組をベースに、学校全体として共通理解をし取り組んでいく。家庭の役割や連携も重要であるので、家庭の協力も様々な面で働きかけたい。</p> <p>また、学校だけでなく地域や社会体育（部活）や公民館、民生委員会、区長会、老人会等との密接な関係構築を行い、連携強化を図っていく。密接に連携し合うことで、家庭を支え、児童を支えていく、そうすることで地域が変わり、学校も変わると考える。その発信を学校から行いたい。</p> <p>重要課題は、学力の向上（活用力）、心の教育の充実、特別支援教育の充実の3本柱であり、来年度も継続、強化したい。</p>